

## 巻頭言

### 平成 25 年度看護研究交流センター活動報告書発刊にあたって

本学は開学以来、県民の大学として看護専門職を養成するとともに、地域課題に対応した教育研究に取り組むことをもうひとつの重要な使命としております。看護研究交流センターはこうした使命を果たすために設置されています。当センターの目的とするところは、県内で提供される看護サービスの質向上とともに、共同する県内看護職の生涯学習支援や人材育成、更には教育研究環境の整備に貢献すること、そして県民の健康づくりに貢献することです。また、地域と大学が共に成長していくための橋渡しのための役割を担っています。

当センターも創設して 12 年目を迎え、活動報告書も 12 冊目を発行できることになりました。当センターの活動がこのようにまとめられ、皆様にお届けできることは重要で意義深いことですし、心から喜びたいと思います。

センターでは、本学の建学の精神である「ゆうゆう・くらしづくり」に基づき、平成 25 年度も 5 つの部門を置き、それぞれの部門の活動を柱にして運営してきました。看護サービスの質向上をめざした地域課題研究には 8 件の応募があり、地域の看護職者が直面している課題を取り上げ、確実に実践の改善・充実につなげる研究に取り組んでいただいております。また、県内看護職者の生涯学習支援、県民の健康づくり支援として 27 回の公開講座を開催し、1380 人余の方に参加していただきました。上越地域看護研究発表会や地域課題研究発表会には多くの看護職者がつどい、研究成果の共有を図ることができました。このように、センター設立以降、大学と地域の関係はより緊密な関係になったと思われま。その意味においても、学内外の皆様のご支援に深く感謝したいと思います。

超高齢社会を迎え、また人口減少が始まるなかで、わが国は社会システムを大きく改革しています。長く病を抱えながら生活する人々の増加に伴い、療養者とその家族の生活を主眼に置きながら支援していく看護の役割、誰もが安心して安全に暮らせるためのコミュニティをつくっていく看護の役割はますます大きくなっています。本学は看護を専門とする大学です。社会情勢を踏まえて、当センターの設置理念の旗を高く掲げて進んでいきたいと思。教職員一同、地域の皆様としっかりとした絆を結び合い、大きな変化に対応していきたいと考えております。これからもご支援のほど、どうぞよろしくお願。いたします。

平成 26 年 3 月

新潟県立看護大学

看護研究交流センター長

平澤 則子